

議事概要

平成30年度・第1回豊川市の未来を拓く教育推進懇談会

日 時：平成30年6月21日（木）午前9時00分～午前11時25分

場 所：豊川市音羽庁舎研修室（4階）

出席者：会長 伊藤貴啓

副会長 阿部聖

委員 恩田やす恵、渡邊明、伊藤政絵、小野清隆

1 あいさつ

高本訓久教育長

2 委員自己紹介

各委員

3 今年度のテーマについて

テーマを「市立小中学校の規模に関する課題解決に向けて」とし、「豊川市立小中学校の規模に関する基本方針」（仮称）を策定するため、意見を伺っていく。

4 会長、副会長の選任

会長に伊藤貴啓委員、副会長に阿部聖委員を選任した。

5 議題

（1）豊川市の小中学校について

※質問等なし

（2）小中学校の規模に関する課題について

「委員」

○市としては、複式学級を厄介な問題、困ったことと捉えている印象を持った。

⇒（事務局）厄介な問題だとは考えていない。小規模校のメリットも把握し、地域住民の話も聞きながら、どのように課題解決していくかを検討したい。

⇒「委員」 複式学級には、単式学級にはない難しさがあるが、単式か複式かによって、そこで育つ子どもには、ほとんど問題はないと思う。小さい規模の学校で育つ子どもは、友達が上下の学年にできるので、メリットの方が多いかもしれない。ただ、集団によるボール運動や合唱は難しく、カリキュラムで工夫する必要がある。「複式学級になったから、子どもの成長に問題が出る」ということはなく、視点をどこに持っていくかが重要である。

「委員」

○単式学級、複式学級の編制について、国と県の基準があるが、子どもを育成する教育的な観点から考えた根拠を示す必要がある。

⇒（事務局）次回までに確認する。

「委員」

○「本市として標準と捉える学校規模を明確にする必要」があるとのことだが、市としては、「国や県の方針はあるが、それを踏まえた上で、豊川市としてきちんと考える」というスタンスでよいか。総合教育会議での検討を想定しているか。

⇒（事務局）学校規模の標準については、懇談会のご意見を踏まえ、市として明確にしたい。総合教育会議においては、基本方針について議題として取り上げたい。

「委員」

○次回以降の議論の参考として、近隣市の学校選択制の成果について伺う。

⇒（事務局）近隣市における実績について、公表データに基づき説明。

「委員」

○課題整理を要する学校規模としては、小規模校に着目するとあるが、小規模校の地域の人口、世帯数の動向なども、情報としてあるとイメージしやすい。

「委員」

○デメリットばかりが挙がっている。

「委員」

○「国が示す課題と対応」として、マイナス面、課題だけが羅列してある。メリットも分かるような提示の仕方をした方がよい。

「委員」

○近隣の学校に統合される場合の学校について、通うのが遠くなると思う。バスなどの交通手段として、市で用意するものはあるのか。

⇒（事務局）学校統合の場合、通学区域が広がるため、スクールバス等についても検討しないといけない。国では、公立小中学校の通学距離は、小学校で概ね4 km以内、中学校では概ね6 km以内としている。

「委員」

○今回策定する基本方針と、豊川市公共施設等総合管理計画との関係について伺う。

⇒（事務局）計画の中で、「複式学級の発生が予想される時点」という言葉がある。懇談会では、手順の明確化について議論し、何年前から課題解決に向けた議論をしなければいけないのか、地域に入っていかなければいけないのか、というような方針を定めていきたい。

（3）作業部会の設置について

今年度のテーマを踏まえ、教育部長、次長、学校教育課、庶務課職員5名を部会員とする作業部会を設置した。

6 その他

（各種事務連絡）

以上